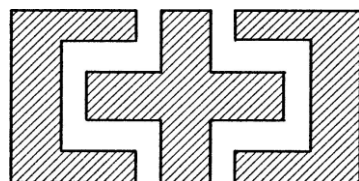


労働災害事例研究



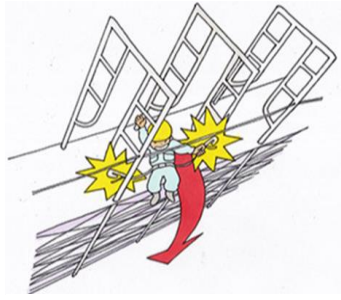
はじめに（四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会長）
発刊によせて（四日市労働基準監督署長）
事例に学ぶ（四日市コンビナート地域防災協議会長）
1981～2021年休業災害336件の分類
2021年休業災害事例（11件）
1984～2021年不休業災害425件の分類
2021年不休業災害事例（26件）
四日市労働基準監督署管内「労働災害・死亡災害」発生状況
教育部会報告
おわりに
会員名簿

（第41集）

2022年6月

四日市コンビナート協力会社

災害防止協議会等連絡協議会

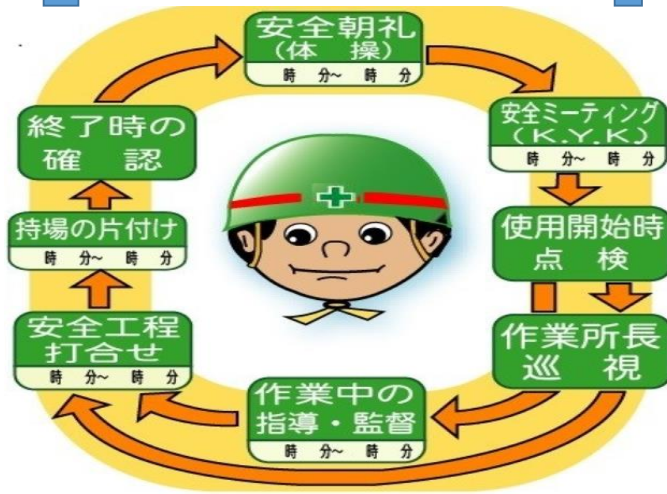


墜落・転落防止

積まれの防止

複製、無断転載を禁止

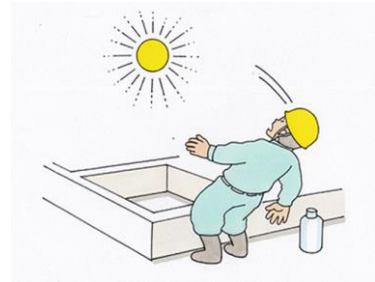
安全施工サイクル活動で「無事故無災害」達成！！



落下防止



切れ防止



熱中症防止

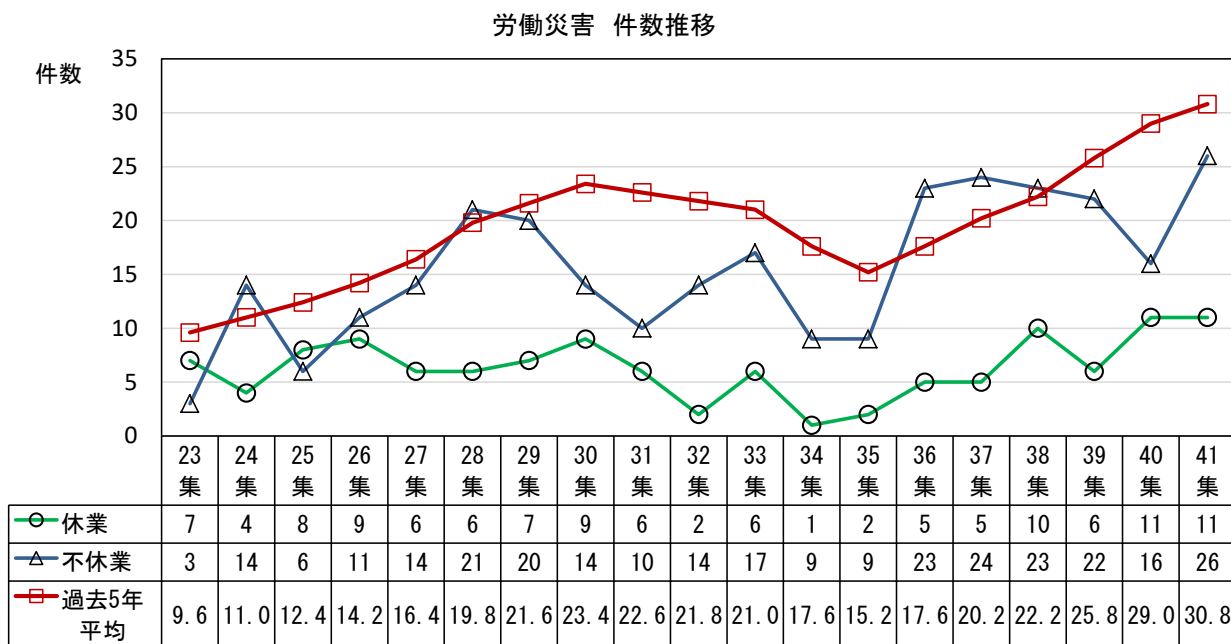
はじめに

関係者のご協力により、労働災害事例研究第41集を発行することができました。

今回の事例集は、令和3年1月から12月までに当連絡協議会に加盟する企業で発生した労働災害として休業災害11件、不休業災害26件を収録しています。

災害件数は、平成22年（第30集）から減少してきましたが、平成29年（第36集）より増加に転じて41集では、最も多くなりました。

事故の型別では、【有害物等との接触】と【はさまれ、巻き込まれ】が各7件と最も多く、続いて【飛来、落下】と【切れ、こすれ】が4件となっています。【高温・低温の物との接触】は3件で、結果として熱中症（脱水症）は2件となっています。熱中症防止の取組みが成果を上げているものと推察します。



残念なことに、昨年に続いて死亡災害が1件あり、骨折も7件と多く労働災害が重篤化しているのではないかと懸念しています。

コンビナート特有の労働災害として、薬傷やガス中毒などの【有害物等との接触】が7件であり、その内薬傷が5件と多く、更なる取り組みの強化が必要です。

工事着手前には、事前の工事計画の通りに有害物質が除去されているか、仕切り板の挿入などの有効な安全措置が完了しているのかを『だろー・たぶん』を排除して確実にチェックすることが重要です。

また、個人の安全に対する感性を向上させて、ちょっとした不注意や不安全行動から労働災害にいたることをないようにルール遵守を徹底してまいりましょう。この事例集にある軽微な労働災害は、相当数をなくすことが出来るのではないかと考えられます。

この事例集を職場で有効にご活用いただき、労働災害の防止に取り組んで頂くよう重ねてお願い申し上げます。

令和4年6月

四日市コンビナート協力会社
災害防止協議会等連絡協議会
会長 岩野 淳作

発刊によせて

「労働災害事例研究」第41集の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会におかれましては、積極的に災害防止活動に取り組みいただき、心より敬意を表します。

さて、令和3年の当署管内の死傷者数は、新型コロナウイルスのり患による労働災害を除き、死亡者数は8人で前年比100%の増加、休業4日以上死傷者数は740人で前年比3.8%の増加となっています。

四日市コンビナート内でも3年連続で死亡災害が発生しており、これ以上死亡災害を発生させないため、労使一丸となった取り組みが求められています。

死傷者数では、これまで多かった墜落・転落やはさまれ・巻き込まれによるものが長期的に見て減少している一方で「転倒」や腰痛等の「動作の反動・無理な動作」による死傷者数が近年増加し、全体の約40%を占めるなど、いわゆる「行動災害」の防止が課題となっています。

具体的に当署では、死傷災害の中で最も多い転倒災害について、労働分野の問題としてだけでなく、人材確保等、企業の経営問題であるとして、事業者の行動変容を促し、自主的な安全衛生管理の定着を図るため、

「みえきた STOP! 転倒災害プロジェクト 2022 ~ 転ばぬ先の杖 48 ~」と題して転倒予防に注力した取り組みを進めていきますので、ご協力方お願い申し上げます。
安全は 急がず焦らず怠らず

今年度の全国安全週間のスローガンは、「安全は 急がず焦らず怠らず」です。労働災害を減少させるためには、事業者と労働者双方が労働災害防止のための基本ルールを徹底し、またそれらを遵守し実行するために時間的にも、人間的にも余裕を持った業務体制を構築することが重要であることから、このスローガンに決定されました。

本年度は、労働災害の減少目標を掲げた第13次労働災害防止計画の最終年度を迎えます。皆様方におかれましては、このたび発刊されます第41集を有効に活用され、労働災害防止のための基本ルールが徹底されているか、また適正に実行し得る業務体制となっているか改めてチェックをお願いします。

最後に、皆様の職場で無事故・無災害を達成されますことをお願い申し上げ、発刊によせての挨拶とさせていただきます。

令和4年6月

四日市労働基準監督署長 松田滋

事例に学ぶ

「労働災害事例研究」第41集の発刊に当たり、加盟会社を代表して一言ご挨拶申し上げます。

四日市コンビナート協力会社災害防止協議会等連絡協議会におかれましては、昭和55年の発足以来、長きにわたり職長教育や安全に関わる各種講習会等の開催、更には「労働災害事例研究」の発行など、労働災害防止につながる活動に精力的に取り組まれてきました。これまでのコンビナートにおける安全管理の向上に多大なるご貢献を頂いていることに対し、改めて心より感謝申し上げます。

さて新型コロナウイルスによる感染拡大は未だ収束の目途が立たず、全く予断を許す状況ではありません。従来は対面で行うことが当たり前であった様々な安全衛生活動にも、その影響が出てきておりますが、感染リスクを押えながらも、私たちは事故や労働災害防止について最優先で取り組んでいく必要があります。

その様な中、昨今、ドローンやIoT等の新技術導入による産業保安のスマート化も活発に進められており、今後もコンビナートとしての保安安全面、生産性の更なる向上につなげていくためには各社間の連携を生かして情報を共有し、積極的に活用していく必要があります。しかしながら、安全文化は「人」が創るものであり、事故や労働災害を防止するには「人」の危険に対する感受性が非常に重要となってきます。そのためにも一人ひとりが事例に学び、安全に対する知識を高め、これを後世に伝承して行く事が求められます。

貴連絡協議会のご尽力により、このたび「労働災害事例研究」第41集が発刊されることとなり、改めて御礼申し上げます。この「労働災害事例研究」は私たちの身近で発生する災害事例についてイラストを交えながら分かり易く取り纏めて頂いております。本事例を各職場の最前線で働いている方々にまで大いに活用いただき、四日市コンビナートで働く一人ひとりの事故・労働災害の未然防止につなげられるよう心より願っております。

最後に、常日頃からコンビナート各社への多大なるご支援、ご協力を賜っております貴連絡協議会加盟会社各社のご発展と、今後の無事故・無災害を祈念しまして発刊のご挨拶とさせていただきます。

「ご安全に！」

令和4年6月

四日市コンビナート地域防災協議会

会長会社

三菱ケミカル株式会社

三重事業所長 藤巻 精一